

「まっとうな政治を」

J R 川崎駅前 差別に抗う市民集う

7月の参院選を機に急拡大する排外主義に抗い、差別を許さない意思を示そうと、市民有志は18日、JR川崎駅前でスタンディング行動に取り組んだ。川崎市長選のさなかでもあり、差別主義者の候補者に否を突きつけ、差別をなくすための政治・行政を市民の責任でつくり上げようと呼びかけた。

約50人が参加し、「デマや差別のないまっとうな政治を求めます」「外国人が増えて治安悪化はうそ」といったプラカードでアピール。リレートークでは、参院選で極右政党の参政党が差別・排外主義「日本人フ

アースト」を広めた悪影響や、出入国在留管理庁が強行する人権無視の「不法滞在ゼロプラン」が差別を煽っていることへの批判が相次いだ。自民党総裁選で外国人ヘイトを煽るデマを飛ばした高市早苗氏が首相に就けば、極右政権になると危惧する声も上がった。

マイクを握った高橋史帆



プラカードやリレートークで差別を許さない意思を示した市民ら
18日、JR川崎駅前

さんは「移民反対のデモなど先進国がやることではない。排外主義者の攻撃的な行動や差別を煽って票を得ようとする政治が治安を悪化させているのであって、必要なのは差別を犯罪として取り締まる法律だ」と訴えた。精神障害者である高橋さんは「外国人を犯罪者扱いし排除する今の風潮はまさにファシズムだ。攻撃は障害者やLGBTなどにも広がっており、放置すればあなたが排除されるかもしれない」と語りかけた。スタンディングが終わり

かけた頃、市長選に立候補しているレイシストの宮部龍彦氏(46)が川崎駅近くで街頭演説を始めたため、参加者の一部は抗議に走った。「レイシストは帰れ」などと声を上げ、差別を拒絶する市民の意思を示した。
(石橋 学)